

専修学校版デュアル教育推進事業・「ガイドライン」の作成

－第三者評価結果－

1. 評価日時 平成30年2月8日(木) 15:00～17:00

2. 第三者評価委員 学識経験者 : 2名
行政関係委員 : 2名
企業関係委員 : 1名

3. 評価結果(平均点数)

(1) 構成の工夫

評価の観点	配分点	評価
①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。	10	8.6
②必要な情報がバランスよく記載されているか。	5	4.4
③必要な情報が簡単に取り出せるような工夫がされているか。	5	4.0

(2) 内容の工夫

評価の観点	配分点	評価
①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。	10	9.0
②デュアル教育に取り組む気持ちを喚起する内容となっているか。	10	8.8
③最低限、必要な情報は記載されているか。	5	4.8
④失敗事例を効果的に記載しているか。	5	5.0
⑤Q&Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。	5	5.0
⑥受入企業にも参考となる内容になっているか。	5	4.4

(3) 表現の工夫

評価の観点	配分点	評価
①使用語句や文章は、分かりやすい表現となっているか。	5	4.6
②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。	5	5.0
③文字の大きさ、分量は適切か。	5	4.6

(4) 汎用性の工夫

評価の観点	配分点	評価
①全国の建設系専門学校で実現可能な内容となっているか。	10	8.6
②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。	10	9.2
③教育支援ツールは、各学校で活用できるものとなっているか。	5	4.4
合 計	100	90.2

【採点の考え方】

配点	優れている	やや優れている	概ねよい	やや不適當	不適當
5点満点	5	4	3	2	1
10点満点	10・9	8・7	6・5	4・3	2・1

4. 評価結果からの考察

(1) 構成の工夫:17点/20点

全体的に高評価を得られていた。特に、「①冊子全体は、読みやすく、分かりやすい構成になっているか。」と「②必要な情報がバランスよく記載されているか。」が高講評を得られた。

読みやすさと必要な情報のバランスが取れていることが評価された結果である。

(2) 内容の工夫:37点/40点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「①実証にもとづく、説得力のある内容になっているか。」と「③最低限、必要な情報は記載されているか。」、「④失敗事例を効果的に記載しているか。」、「⑤Q & Aは、冊子の概要版として、分かりやすく作成されているか。」が高評価を得られた。

失敗事例とQ&Aに対する評価が特によかった結果である。

(3) 表現の工夫:14.2点/15点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「②本文中の図や表などの資料は、適切に配置されているか。」が高評価であった。

図と表との配置において、読み手が分かりやすくできている評価結果である。

(4) 汎用性の工夫:22.2点/25点

全体的に高評価を得られていたが、特に、「②初めて取り組む学校でも、参考となる内容となっているか。」が高評価であった。

参考資料としては十分な内容を盛り込んでいるガイドラインであるとの評価結果である。

全体的には、平均点:90.2点/100点という高評価であった。

2. 次年度に向けて

本年度のガイドラインの内容については、評価委員からは高評価を得られることとなったが、全国の建設系専修学校での実証が、現時点では実施できていないことが課題である。

兵庫県以外の地域特性を踏まえた実態を反映したガイドラインを作成するには、各地域の建設系専門学校との協力が必要である。

しかしながら、各地域の専修学校と企業・団体との連携においては、必ずしも温情的な関係ではなくビジネス的な関係なものや、学校のカリキュラムにおいても地域毎に異なるため、以下のような課題があると考えられる。

- ①企業・団体とは学生就職においての結びつきは強いが、企業内実習の協力関係の構築にまでは至っていない地域がある。
- ②企業内実習を行う前提となる単位認定について、教育課程を工夫取組がなされず、見学会的な活動に止まっている学校がある。

平成30年8月に「全国専門学校土木教育研究会(通称:専土研)」という全国の主な建設系専修学校の総会を本校で開催する。その場において、本事業の取組みの理解と普及を各専修学校へ促し、全国へ展開することを目指す。